北日本新聞　（日曜号）　昭和二十年八月五日

大和魂は断じて焼けない！

われわれの縣都はいま焦土にすつ換で立つてゐる、家も焼けた、家財も焼けた、が、しかし、われらの皇土は、祖先の、な魂在はす郷土は、われらの靴底に熱し無言の慰撫、激励、しつ咤を與へてゐる敵が焼かうとして、焼き得なかつた、大和魂が、このあつく熱した灰土の底に、活き活きと鼓動し瀕剌たる生氣をよみがへらせつゝあるのだ、われらには皇土がある、三千六百有餘年の歴史と、大和民族の越中人の血と肉を魂の在り方を傳へた郷土がある、それ以上、何を希むことがあらう、われらは皇土とともに起ちあがるのだ、炎々と燃えさかるがう火を眺めながら、一人でも多く、一物でも多くわれらの戦ふ力を奪はうと二時間あまりの間、われらの頭上で死の亂舞を繰返したB29の暴はしき姿暴虐無残なヤンキーの鬼畜性をいまこそ、この目、この血、この肉で、しつかと見届けたのだ、腸がみし、唇をかみしめて、空を睨んだあの瞬間の血の喰り、沸きかへる激情を、けふの戦力に叩きつけろ!!、一刻も早く戦列を整へ、一日も早く郷土を再建して、この憤しみ、この怨みを、ヤンキーのむかつ面に叩き返さうではないか

怒りと力の叩きつけ

富山を七十機で暴爆

B29二時間にわたり波状攻撃

東海軍管區司令部發表（八月二日十四時）

一、B29約七十機は八月一日夜半約二時間にわたり波狀侵入し富山市附近を焼夷攻撃ののち遠州灘より脱去せり

二、本空襲により富山市内各所に火災を生じたるも拂曉迄に概ね鎮火せり

高岡近郊へ焼夷弾

一日夜十時半ごろ高岡近郊へ數機B29が爆弾を投下した外、數機の行動により警戒警報二時間余に亘つた

燃え上る烈々の闘魂

兵器増産に揺ぎなし

暴、陛下、みと工場死守

死傷は僅少

敵は小型爆弾も併用

全力擧げ救護

起つ！退くの勇

【富山】は断じて屈せず

岡本知事談

家庭生活を野戦化

勝ち抜く郷土要塞を築かう

疎開のヨイコも木炭自給

種いもと麥の供出依然振はず

艦船二隻を撃沈

荒鷲の沖縄急襲相次ぐ

敵潜、トマ小牧を砲撃

英國の基礎根本的変化

勞働黨大勝の意義

ブーゲンビルで依然激戦

六百機で二軍官區へ侵入

長岡、水戸、鶴見、川崎

立川、八王子を攻撃

戦災から即刻立上れ

論説

一千餘機を撃墜破

潜水部隊六隻を屠る

本土沿岸、陸海の戦備強化

敵艦四隻で大島を砲撃

宇都宮市も攻撃

村田駐比大使辭任

市郡週報

明窓